

平成 30 年度 第 1 回仙台市景観総合審議会 議事録

日 時 平成 30 年 5 月 15 日 (火) 14 : 00 ~ 16 : 00
会 場 仙台市役所本庁舎 2 階 第 5 委員会室
出席委員 稲葉 雅子委員、小林 淑子委員、杉山 朗子委員
高山 秀樹委員、武山 良三委員、杼窪 昌之委員
馬場 たまき委員、舟引 敏明委員、不破 正仁委員
堀 繁 委員、吉川 由美委員
仙 台 市 都市整備局長、佐藤次長、八木次長、計画部長、総務課長
事 務 局 都市整備局計画部都市景観課
そ の 他 宮城県土木部都市計画課

1. 開会

司 会 ・ 本日の審議会の出席状況ですが、橋本委員、巖委員よりご欠席の連絡を頂戴しており、委員 13 名中 11 名の出席でございますので、景観法等の施行に関する規則第 31 条第 2 項の規定により会議が成立しております。

堀会長 ・ 議事に入る前に今回の議事録の署名人ですが、1 人は私が務め、もう 1 名は高山委員にお願いしたいと思います。

2. 議事 (1) 屋外広告物部会の設置について

堀会長 ・ 昨年度に設置いたしました屋外広告物部会につきまして、委員の委嘱期間が満了しておりますので、引き続き設置し、屋外広告物に関する具体の施策を部会で議論しながら進めていこうという趣旨のものでございます。

・ 条例上、部会の委員は会長が指名することになっております。事務局ともあらかじめ打ち合わせをしております。詳しくは事務局より説明をお願いいたします。

事務局 ・ (説明)

堀会長 ・ 委員の皆様のご意見、ご質問を承りたいと思います。

・ 特にございませんでしょうか。

・ それでは、部会の委員につきましては、お示ししておりますこの 5 名の

方でいかがでしょうか。（「異議なし」の声あり）

- ・それでは、この5名の方をお願いします。
- ・部会長ですが、こちらも審議会の会長である私が指名することになっておりまして、審議会の副会長でもあります舟引委員をお願いしたいと思っております。舟引委員、よろしいでしょうか。

舟引副会長 ・はい。

- 堀会長
- ・ありがとうございます。
 - ・事務局の説明にもございましたが、必要に応じて景観総合審議会の意見も聞きながら進めていただければ幸いに存じます。よろしく願いいたします。

3. 議事（2）今後の景観施策のあり方について

- 堀会長
- ・昨年度の審議会でご意見をいただいたところですが、今年度からはこれまでの取り組みや実態の評価検証を行っていき、施策のあり方の見直しなども検討していくということでございます。
 - ・今回は、今後のスケジュールや評価・検証の方針につきましての議論となります。

事務局 ・（説明）

- 堀会長
- ・特に評価検証の方針についてということですが、そこだけだと十分わからないということであれば、全体について、ほかの部分でも結構ですので、ご意見としていただければと思います。

- 杉山委員
- ・全体のお話の中で、仙台駅周辺の中心部だけをやっていくのか、長町や地下鉄の終着駅周辺なども対象とするのかという、範囲についてお聞きしたいです。
 - ・また、教えていただきたいことが2つありまして、1つが最後の意識調査のところで青葉城址という表現から仙名城址に変わっていますが、このまちで青葉城とあまり語られていないような印象を持ち続けているのですが、理由があるのでしょうか。
 - ・もう1つは広瀬川についてです。広瀬川はとても魅力的な川だと思っておりますが、何となくみなさんが川から離れている印象があります。川

を活かしたイベントをあまり聞きませんが、物理的にこの川は遊ぶのには難しいところなのでしょうか。地形的なところを教えていただきたいです。

堀会長 ・ 評価検証の方針が、場所やあるいは7つの方策との関係で整理されていない、事務局の説明では、全体としてこういうやり方で評価していきます、という話でしたが、地区の特徴などや、7方策が変わると評価の仕方変わるのではないかと、そのようなお話と捉えていただければと思います。

都市景観課長 ・ 評価検証の範囲の件については、仙台市全域を一度に評価するのはかなり難しいと思っております、ある程度段階的に進めなければならないと思っております。一番最初は過去の資料やデータも残っている中心部、いわゆる景観重点区域のエリア、そこには青葉山、広瀬川、メインストリートも入っていますので、最初に評価検証をしたいと思っております。

・ 城址の名前については、以前は青葉城址、仙台城址、どちらも使われておりましたが、今は仙台城跡という名称で統一され、サインもそのようになっております。

・ 広瀬川については、以前はボート乗り場もありましたし、上流のほうに行けば芋煮会をやっておりますので、たまたま河岸段丘のために西公園の下などは崖になっておりますが、一番下の下町段丘の花壇のあたりになればもう少し身近に川に触れることができると思っております。

吉川委員 ・ 評価検証の方針ですが、見た印象だけが景観ではないと思います。景観となるものの中に人間が関わって、人間がその景観の一パートになったときにどういう感覚がその人間の中に醸成されてくるかということが景観の重要な点ではないかと思えます。その景観の中に人が入って暮らしたり活動する中で、人の中にその地域への愛着とか、あるいは何か精神的なものが醸成されることもあるだろうし、気持ちが良くなったり悪くなったりということがあると思えます。そういう景観の中に入り込んだ視点での評価項目がないと、心を打つ景観形成に向かっていけないのではないかと感じています。実際にその評価の具体的な方法はまだ見えてないですが、外見からの評価しかここにはないのではないかと懸念しました。

堀会長 ・ 何のための評価検証なのか、あるいはどのような結果が得られることが

評価検証をしたことになるのか、ということを考えていくと、先ほどの3目標7方策ですね、これで景観施策を進めてきたので、それらが正しく機能しているか、あるいはどこかに目標なり方策に問題があれば直す、というための評価検証でないと意味がないと思います。そのためには、目標と方策との関係、あるいはそれぞれの方策が具体的にどのようなことをやってきたのか。例えば先ほど方策の説明の中で「重点地区に指定した」という説明がありましたが、指定したのは方策がやったことではないと思います。指定して何をやったのか、その先まで深く掘り下げて考えていかないと、正しい新たな方策の展開ができない、つまり検証として粗いのではないかと。今のご意見は、つまりもう少し深掘りしたような組み立てをしないと、やりましたというエクスキューズ（言い訳、口実）になってしまうのではないかと、このような懸念の表明ではないかと思えます。そのような意見はごもっともだと思います。

- ・やろうとしていることはとても正しいし、行政であっても、やったことが本当に正しかったのかを検証し、どこかに誤謬（ごびゅう：（考え・知識などの）あやまり）があれば正すという、そういう姿勢が重要です。せっかくやるのであれば的を得てやってもらいたいので、そのためにももう少し丁寧に考えていただきたいという、そういう話だと思います。私からもお願いしたいと思えます。

- 不破委員
- ・今の話のように評価は何のためなのか、もしくは場合によっては誰のためなのか、というようなことがあると思えますが、今回の場合はアンケートが仙台市民に対する意識調査だけで達成されるのかという問題があると思えます。例えば仙台を訪れる人は仙台市民だけなのかということがあります。もっともこのアンケートはすごく重要なツールだと思いますし、ここに挙げられている過去の市民意識調査の幾つかの項目はとても重要だと思います。調査項目の1、2及び6のようなもののみを取り上げるのではなく、1から13それぞれに目を向けることも重要かと思われれます。
 - ・一方で、やはりこの手の意識調査のアンケートだけに集約してしまうと、その先に、恐らく地域性と場所性とそれらの距離感みたいなものがわかりづらくなってしまい、どこに何が見えているのかということが反映しづらくなってしまいます。
 - ・少人数のグループでも構わないですし、できれば多くの方にチャンスだと思いますが、仙台の「イメージマップ」をつくってもらう、つまりこれらのアンケートに上がったようなものが実際にどこにあるのかを市民

の方に評価していただく、場合によっては訪れた方々に評価してもらい、それらの距離感、関係性などもマップに落としつつ、詳細な評価検証ができたらいよいよ、と思います。それはただのまち歩きとはまた違う視点かもしれませんが、そのようなことを少し思いました。

- 堀会長
- ・評価検証の進め方の具体的内容で、アンケートや関係者ヒアリング、ワークショップとありますが、これを少し丁寧に組み立てていき、仙台市は広いし、通りが1本違っただけで当然のことながら見えとか景観も違って来る、あるいは空間構造も違いますので、この市民意識調査（参考）にある13項目が、どこでより重要なのかというイメージマップとかメンタルマップなど、そういうものも意識したアンケートなりワークショップをやってみてはどうかという、アンケートやワークショップに関する、あるいはヒアリングに関する具体的な提言ということですね。
 - ・これについては、やればやるほど恐らく複雑になり、延々とこの評価検証が長く続くということになりかねないので、やはり最初に不破先生も言われた何のための評価検証かということを強く意識して、どこまでわかればいいのか、今回の評価検証でこういうことがわかればそれでOKというところを整理し、それに向けて今のような話をうまく組み立てていただけると、より効果的な検証になるのではないかと思います。

- 都市景観課長
- ・誤解があると良くないので説明させていただきますと、この評価検証の方針の市民意識調査というのは、過去に行った事例であり、このとおりにやろうとは思っておりません。聞き方もより丁寧に聞きたいと思っていますし、ビジュアル的なものも交えて、尋ね方も工夫したいと思っております、これから詰めていきたいと思っています。
 - ・またワークショップなどについては、何もわからない状態で意見をいただくのではなくて、できるのであれば堀先生のような専門の方に景観というのはこういう見方をします、こういうものが景観です、ということをあらかじめ説明していただいて、それからまちを見て歩くとか、そういったやり方でどのように思ったのか、またはどういうふうに改善していったらもっと良くなると思うのか、一定程度景観を理解した上での見え方の生の意見を引き出していきたいと考えています。これにつきましては、8月ぐらいまで検討させていただいて、具体的にまとまった時点でご報告させていただきたいと思っております。

- 堀会長
- ・評価検証の際の考え方の中で、3点目、景観形成に対する知識向上、市

民意識の醸成等、そういうものにつなげていきたいという考え方もとても大事だと思います。単にアンケートをとる、あるいは考えてもらうというよりも、正しく理解してもらった上で考えてもらうということが重要ですので、不破委員にしても吉川委員にしても、親心的に言うのと丁寧を実施してくださいということだと思いますので、よろしく願いいたします。

- 杉山委員
- ・ 今回の評価検証ということで申し上げますと、こう良くなったねという結果が欲しいのかと思ったりします。ただ、いろいろやってこられて、イベントなども非常に評価が高いし、定禅寺通を中心とした並木の使い方などもすばらしいものがあると思っており、本当にまちの方々が使ってきて醸成されてきた景観というふうに評価できるのではないかと思います。その辺をみんなでやったねという評価が1つ挙げればいいかと思えます。
 - ・ 加えて、まちの使い方とか、取り組み、活動についても考えていただきたいと思えます。例えば仙台朝市の通りやアーケード周辺、脇の路地など、大きなまちの中にある路地的な空間の使い方や評価です。そこで使われている看板など、これは時々法律違反というのが出てきたりもしますが、魅力的な場合もあります。そういうまちの使い方や活動は、実際に市民の側から見た時に、どのように映っているのかということが知りたいです。それから、青葉通でオープンカフェ実験のような取り組みがありましたよね。そういう活動が市民の側から見た時に、やはり良かったと思われていたのかということ。評価検証をするのであれば、そういうまちの使い方や取り組み、活動をさらに今後活かすため、評価と今後、というような形で進めていただけると、より良いのかなと思ひ、期待したいと思ひました。
 - ・ この項目では定禅寺通とありますので、それはきれいですよね、ということになります。評価するものをどうするのかという、そういうものに対して、界隈性みたいな部分とかも仙台の魅力の一つでもあると思うので、それも取り組んではきたわけですが、そのような点がうまく出てくれば良いと思ひます。
- 堀会長
- ・ 基本的には、今までやってきた施策の検証になるわけですね。道とかエリアとかそういうものの評価もやってくださいってということですかね。
- 杉山委員
- ・ カフェのようなものを実施したのは、どこの方々でしたでしょうか。

- 都市景観課長
- ・青葉通に青葉通まちづくり協議会があります。その協議会が、既に完成している晩翠通から西側の通りで、近くの喫茶店からコーヒーを出してオープンカフェ風にする、そういった社会実験を行っております。そのような取り組みを今後も引き続き行っていければなと思っており、地元協議会を支援しております。
 - ・また、いろいろな方を紹介したりしており、稲葉委員もご紹介させていただき、一般の方を対象に青葉通のまち歩きを3回ぐらい実施し、青葉通の魅力を紹介し、まず知ってもらおうという取り組みを始めているところです。

- 舟引副会長
- ・関連しまして、都市計画の中でいうと景観は目的であります、手段でもあります。都市計画の主たるものでいうと、今まさに話のありましたにぎわいのあるまちづくりで、どうやってまちが市民にとって楽しいものになるかというツールで、今はもう外国はどこでも一番大切なのはまちなかのにぎわいづくりだというような形で、景観やデザインという手法をどんどん取り込んでいます。
 - ・その目的は何かというと、都心のステータスアップであり、国際的にも、国内的にも、都市間競争があつて、その都市が魅力があつて、外から人が来てくれるか、外から働きに来る企業があるか、そういう人気があるかどうか、そのためにまちをどんどん磨き上げていこうというコンセプトでやっているところが多いです。
 - ・日本の政令指定都市と東京 23 区の都市の魅力度ランキングのようなものをみましたら、見事に仙台市は3番だとか4番だとか、札幌、福岡に負けていました。その福岡や東京は世界の都市ランキングでいくと東京が入って、時々福岡が調査によっては入っています。
 - ・要は世界的に見てアジアの中でどこの都市が極めて魅力的なのかということ、さまざまな指標がありますから、景観だけではありませんが、仙台市は何のために景観の評価をするのかという意味でいうと、もちろん市民の評価を抜きにしては考えられないとは思いますが、しかし、外の人から仙台に持っているイメージとかそういうものをきちんと評価し、それを市民にフィードバックしてないのだめなのではないかと思えます。それこそインバウンドの人に話を聞くとか、もしくはそういうツーリズムをやっている人たち、または企業とかも考えられるのではないのでしょうか。
 - ・仙台市の都市整備部門が目的とする部分に景観は非常に重要な意味を占

めていると思うので、そういう視点も評価の中に入れていただきたいと思います。

- ・個人的に言うと、今東北地方の地域の衰退をどうやって防ぐかという課題でいうと、仙台市もしくは仙台都市圏が頑張らない限り東北の未来はないと思っていますので、そういう意味でも考えていただきたいと思います。

- 堀会長
- ・大事な視点を提供していただきました。市民のアンケートとか市民の評価ということは当然ですが、それだけでは不十分だろうと思います。先ほど局長の挨拶で、国際的な視点に立ってより魅力的に、より仙台らしさ、より仙台のアイデンティティを明確にしていくという都市戦略的なお話がありましたが、よそから見て、まちづくり戦略的にどのように検証していくのかという、そういう視点は欠かせないと思います。
 - ・市民が良いと言えばそれで良いかという、今はそういう時代ではありません。都市間競争が激しい時代です。勝ってないのだめなのです。だから、そういう観点からもぜひやってもらいたいと思います。
 - ・そうすると、果たして不特定多数の人のアンケートで事足りるのかというところに当然思い至ります。やはり専門家集団が評価するという、つまり、ある一部の専門家から今の仙台を評価するというようなことがあってしかるべきかと思います。審議会というのはそういう専門家の集団なので、ここで評価するということもありかかと思ひます。そういう観点もぜひ頭の中に入れておいていただければと思います。

- 武山副会長
- ・評価となりますと、京都市のほうで屋外広告物の評価をいたしまして、これは非常にわかりやすい評価にしました。要するに塔屋とか袖看板を取りましょうという施策で、取る前と取った後でどちらがいいですかという方法です。市民の方々2,000人に送付したところ、800通ぐらい返ってきました、一番年齢の高い方では92歳の方からも返ってきました、非常に良かったと思いますが、そういう明らかな差異がある場合はやりやすいわけですが、資料にある景観重点区域内の街並みの変化（参考）の仙台駅西口はまだわかりませんが、東二番丁通や仙台城跡眺望は写真を見ても比べようがないのです。ですから、こういうものでアンケートをしても、特色が出てこないと思います。
 - ・では何を評価するのかといったときに、会長もおっしゃったように施策、景観7方策についてまず評価していくべきかかと思ひます。例えば景観賞を与えましたというときに、富山でも景観賞をいただいたから次も頑張

ろうと思いましたが、何かそういうコメントがあると、なるほど、その景観賞がこういうのも目的だなとわかるわけです。協議会ができ、できたことによってこんな取り組みをしました、ということになりますと、これもつくって良かったなとなるわけです。あるいは1つつくったことが隣のまちでも評価されて、私たちもこれをつくろうということで派生をしていったりとか、やっぱりそこを一つ一つ丁寧に、施策の目的に応じてどういう効果があったかということ拾う必要があると思います。

- 全体的に景観をどう評価していくかというときに、専門家的なポジションと市民的なポジションと2つの項が必要だと思います。専門家的なところでは先ほども広瀬川の話がありましたが、まず地域の魅力的な景観をつくっていかうと思うと、その地域のことを知るしかないわけで、例えば広瀬川の地学的な成り立ちがどうなっていたかとか、そういったことをしっかりと確認していく必要があると思います。当然歴史的な背景の中でどのようなまちづくりが行われて、どの時期にどのような商業が盛んになったかとか、そういったことを一つ一つ捉えていく、その中でこういうお祭りができた、などということをもまず知ることが、そこをリソースにして、じゃあこれをピックアップして、今のまちづくりに資するような景観づくりをしていきたいと思います。
- それには専門家の関与が必要かと思いますが、市民の関与としては、やはり皆さんの心の景観といいますか、一人一人がお持ちのストーリーみたいなものをいかに拾い上げていくかということが重要かと思います。例えば高岡では、千本格子のあるまちがありますが、その千本格子は磨かれて丸くなって、とってもやわらかな雰囲気になっています。それは子供たちの仕事で、要するに毎日毎日雑巾を絞って千本格子を磨くということが、その地域の風習でありました。だから街並みがこんなふうになっている、ということになっている。非常にわかりやすい。それはやはり住民の方とか経験した方でないといけない景観の要素になります。そういったことを一つ一つ丁寧に拾っていく。
- ですから言葉で拾う、それから写真が最近非常に増えてきていますから、市民の方々にいろいろな自分のお気に入りの、それこそ路地裏も含めて写真を撮っていただいて、なるほど、こういったところが皆さん良いと思っているのだなということがわかりますし、それから子供たちの写生ポイントですね、その都市の景観の印象に残るポイントを拾う上で子供たちの目というのは非常に重要だと思います。
- まとめますと、専門家の目と市民の目と合わせてつくっていく。とりあえず魅力のリソースになっていることも評価みたいなどころにつなげて

いくしかないと思います。

- 稲葉委員
- ・ 3つの視点をお話ししたいのですが、1つは評価をするに当たり、もともとどうしたかったのかという目標みたいなものがわかりやすくあると評価がしやすいかと思います。武山委員からも、明らかな差異がある場合は、すごくわかりやすかったというお話がありましたが、今の仙台を見てどうかということではなく、もともとどうしたかったけれど、今はこうだけれども、どうでしょうかというものがあるとわかりやすいというのが1つです。
 - ・ 2つ目は、市民の方へのアンケートとかヒアリングなどをするのであれば、属性を細かくしていただいたほうがいいと思います。仙台生まれで仙台育ちという方、私も今仙台市民ですが、ここに来て25年ぐらいという市民歴です。あとは、大学するとき4年間だけの市民歴の学生や転勤族の方なども多く、たくさんの属性がありますので、どういう方にアンケートをとるのかということも重要かと思います。
 - ・ もう一つ、仙台市には5つの区があって、泉区という北のほうにお住まいの方は普段あまり青葉区にすら出てこないという方も非常に多く、南のほうの長町などに住んでいる方は滅多に、泉区までは行かないという方も非常に多くて、どこの場所のアンケートをどこに住んでいる人にとるのかということも重要かと思います。
 - ・ 最後に3つ目ですが、アンケートやヒアリングの内容ですが、すごくきれいでいいねっていう景観というものもあると思うのですが、先ほどご紹介いただいたように青葉通まちづくり協議会さんと一緒にまち歩きを企画しているのですが、意外に青葉通に来ないという方がいらっしやいます。そういう方にお話を聞くと、あまり来る用事がない、来る必要がないということにして、そうすると来たいところなのかどうなのかということもそのアンケートの中に入れていってもいいのではないかと。きれいだということと、行ってみたいとか活用したいということはちょっと趣旨が違うのかと思いました。
- 堀会長
- ・ 1つ目は、3目標があって7方策があって、その目標の達成度、3つの目標がどのぐらい達成されたのか、そういう観点からの検証ということが重要ではないかというご指摘ですね。
 - ・ それから、市民属性を細かくしたほうがいいのではないかと。ただ、これは細かくすればするほど手間がかかってまいりますので、このメンバーで通常業務をやりながらですから、それほど大きくできないですね。

そうすると効率よくやるにはあんまり細かくしないで、一番欲しいところだけうまく出せばいいので、そういうご意見はご意見で貴重で、よく事務局のほうでお考えいただければと思います。

- それから、アンケートの内容ですが、これも重要なところのご指摘だと思います。

- 馬場委員
- 初回ということでは言わせていただきますと、まず前回の審議会の最後に目標ということで、その中でも強い思いといたしましょうか、先生方がおっしゃっていたのが目標1のところだったと思います。都市のアイデンティティというのは一体何なのかと。目指している重点的なところというのは何なのかというようなところがあって、先ほど優先順位という話が出ていますので、そのあたりのことを投げかけて、答えといたしましょうか方向性がわかるようにアンケートなり調査なりというのを進めていくというのがまず一つ方向として大事なのかなというふうに感じています。
 - その中で、私は仙台市での青葉城の基本計画のほうにも参加させていただいているのですが、基本計画をつくり直す、見直すといったところですか、公園センターというものができると、そういうような、ほかの部署で動いている計画がございまして、そういうところに対して、景観総合審議会との横のつながりというのが非常に大事になってくると感じています。ですので、都市計画マスタープランですとか総合計画を踏まえて景観施策にという進め方もいいと思うのですが、もう少し他部署との連携を前面に出して、逆にそちらのほうにこちらの意見を届けていただくというような方向性も非常に大事で、それは結果的に横に全部つながっていくのではないかなというふうに、幾つか参加させていただく立場からは考えております。
 - 資料2-1の検討スケジュールは、大変わかりやすくまとめていただいておりますし、これからはより細かくスケジュールリングされていくと思いますが、そのときに、私のリクエストとしては、これまで割と自然環境、それから屋外広告物ということはこの委員会でも検証してきているので、もう少し歴史・文化というところを切り取った調査というのにアイデンティティというのも加えていただけて、調査を進めていただきたいと思います。

- 堀会長
- 都市景観課の景観施策だけでは当然対応できないわけで、都市の戦略ですから、それはさまざまな課や部局が関わるので、横の連携が重要とい

うご指摘で、これは恐らく事務局の皆さんが一番そう思っておられると思うので、これに関してはコメントをつけていただければと思います。

- ・最後のご指摘はスケジューリングで、この中に少し歴史とか文化とかそういうような切り口の検証も入れてはどうかというご提案ですね。これに関しましては、先ほど言いましたようにロードがなるべく増えないように、上手に進めていただければと思います。

- 都市整備局長
- ・総合計画の策定とか各種関連計画との整合性ということですが、当然総合計画の策定に当たりましては全庁挙げて取り組むものでございますので、その中で相互に調整を図りますが、ただその段階ごとにそれぞれで進み方が違う部分もありますので、それぞれの検討段階に応じてそれぞれの部門での施策が総合計画の中に盛り込めるように、綿密に調整をさせていただきながら進めることとしておりますので、当然景観についてもさまざまご議論いただいた中身をそこに盛り込めるように努めてまいりたいと思っております。

- 杼窪委員
- ・都市間競争というのはごもっともだなという思いで聞いておりました。私自身も仙台生まれの仙台育ち、7年間だけ学校と就職で東京にいただけなので、ピュアな仙台人ですが、手を広げるといっても都市間競争に勝たなければ意味はないと思いますので、極端な話をすれば、青葉通はお城まで続いており、しかもその途中には先ほど出ました広瀬川もありますので、いわゆる西口から青葉通1本に絞っていけば、ある程度、都市間競争には対抗していけるのかと思います。今回の評価検証については、それだけでは少ないのですが。
 - ・そうでなくとも20年後には人口100万人を切るという話も出ているので、東北を救うためにも仙台が勝ち抜く必要があり、景観をもって発展していただきたいと思っております。

- 杉山委員
- ・細かいことですが、市民意識調査（参考）の中で、「調査項目：仙台を象徴する風景と具体の場所について」と、「風景」という表現をお使いになっております。先ほど舟引委員がおっしゃった都市の魅力形づくる景観ですが、近景、中景、遠景全部入っているのを景観とっていて、風景と言うとちょっと引いた視点から眺めるというような構造みたいなきこえるため、私自身は風景という言葉を使わないです。調査結果を見てみると、きれいな風景という印象の結果だったのかと改めて思いました。このあたりの、見てきれいなのと行きたくなる場所は違うという稲

葉委員の先ほどのお話は、ああそうだなと思いました。

- ・今回提示された調査をこのままお使いになるとはもちろん思っていますが、設問や該当項目に「風景」という表現を使わないほうが適切ではないかと思うので、設問だとか回答の項目のつくり方、お聞きになるヒアリングの方向、そのあたりをお考えいただけるといいなと思います。まち歩きをやられている方々などにもご意見を聞きながら、くみ上げていただきたいと思いました。

- 舟引副会長
- ・今の話と関係しますが、何をもってどの景観が良いかを判断するのは、資料2-2にある目標、これが3つあって、これしか物差しはないはずで。ここの「国内外に発信する風格ある景観」に寄与したかどうかということを自己評価をすればいいのではないかと思います。
 - ・景観計画はこういうものをつくっていくということを中間段階で市民にアピールをする、そのためには当初からもくろんだところをきちんと評価をして示す。一方で、だめだったらここはこうこうでだめだったということ、これも合わせてネガティブな部分として示す。この段階では若干抽象的ですが、これであまくいったところはどこですという事例を示せば、目標をある程度明らかに示すことができるのではないかと感じました。

- 堀会長
- ・何のための評価検証か、そこをきちんと押さえていただければ、おのずと答えは見えてきて、どういうアンケートをしたらいいのかがわかってくるかと思います。

- 高山委員
- ・2点ありまして、1つは評価検証の考え方で、検証する際にセミナーやワークショップを絡めて進めるということで、市民や事業者の取り組みの育成などにもつなげるというところに、非常にありがたいなという評価をしております。都市の景観を形成していく上でやはり主体となるのは市民や事業者です。そういった方たちに都市景観に対する意識を持っていただかないと、街並み自体の形成がうまくいかないと思いますことから、今回の取り組みを評価したいと思います。
 - ・もう1つは、景観の部分でハードとソフト両方あると思うのですが、この審議会は都市整備局が所管されていますので、やはりハード部分が非常に意識が高いと思います。しかし皆さんのお話を聞いていてもそのとおりで、都市景観に対する意識がだいぶ変わってきているかと思っています。ソフト部分にウエートが高くなってきているのではないかということ

感じています。実際問題、仙台市のハードをこれから整備していくということを考えると、なかなか難しいのかなというところもあります。そういった意味でソフトの部分、例えば定禅寺通で「GreenLoop 仙台」というコーヒーとお菓子などのイベントをやって、非常ににぎわっています。定禅寺通の魅力が1であれば、魅力あるイベントをやることによって二乗にも三乗にも魅力が増すということで、それが定禅寺通の評価も上げますし、仙台の都市の評価も上げます。市の予算もかけず市民主体でやれるということで、そういった部分の評価というのも都市景観という意味で重要になってくるのではないかと思います。目標が3つありますが、「市民の暮らしを支える心地よい景観をつくる」という部分で、そういったソフトの部分で、違う部署になるのかもしれないですが、都市景観という意味で評価することも重要ではないかと感じた次第です。

- 不破委員
- ・やはり、扱う範囲のことが気になっております。今の話を集約すると、「青葉通の評価をしましょう」というように話ができあがっているように聞こえ、本当にそれだけで足りるのでしょうか、と懸念しています。例えば、段階的に評価していきますという話もありましたが、段階的にとというのはどういう段階を踏まえていくのかをやはり示していただいく必要があるかと思います。
 - ・場合によっては「何のための評価であるのか」ということにもなると思うのですが、それを決める際には、次に何をすべきか、ということもある程度定まっていないと、今回の評価自体が何のためにしているのかがわからなくなってくるということもあるのではないのでしょうか。今回例えば、青葉通のみの評価を進めることに方針が決まるとして、その次に何をすべきか、さらにその次に何をすべきかを段階的にこの場で定めておく、こういった審議会場でそれらの答申をお出しいただく必要があるのではないかと、そのようなことを危惧しています。
 - ・とくに、仙台の中心地区に限って言えば、仙台駅から広瀬川を渡る縦方向のメイン通り3本だけが「仙台」を形づくっているのではなく、場合によってはそのメイン通り3本を横断するような大小さまざまな道の評価が本来は必要であると思われます。そこに人があふれているのか。例えばソフトの話もそうですが、定禅寺通、青葉通、場合によっては広瀬通だけに人が集まるので本当にいいのだろうか、既存の賑わいのある通りとの関連（互いにかかわり合っていること）の検討が必要ではないのかと。さらには、そのメイン通りには商店・飲食店が少ないわけで、その通りにソフトのもの、例えばお祭りがあり、そのお祭りのときだけに

ぎわうので良いのかとか、その場所の特性を踏まえた段階的な評価や見方が必要で、ソフトももちろん大事ですが、お祭りなどをやって、メイン通り以外の場所がどのように盛り上がったのか、それを知る必要があると思います。その上で、「仙台」の魅力が上がった、と評価するような流れで段階的に検証作業をすべきであると思いますので、今回、青葉通のみの評価に収束させるとするならば、ぜひその先の方向性をお示しいただきたいという希望がございます。

- 堀会長
- ・そういう危惧があるということで、7方策の事業検証ですから、青葉通だけをやるということではないと思うのですが、心しておいていただければと思います。ごもっともなご指摘と思います。
 - ・さまざまな貴重なご意見をいただきましたので、あえてまとめませんが、これからアンケートを初めとしていろいろ具体的に取組んでいくときに、ぜひともご意見を踏まえていただければと思います。また、必要に応じて各委員なりに、あるいは私なりにご相談いただければと思います。どうぞよろしく願いいたします。

4. 閉会